

CO₂を減らす。

自己治癒コンクリート" Basilisk HA "が
国土交通省のNETISに登録されました



Basilisk HA

self healing concrete

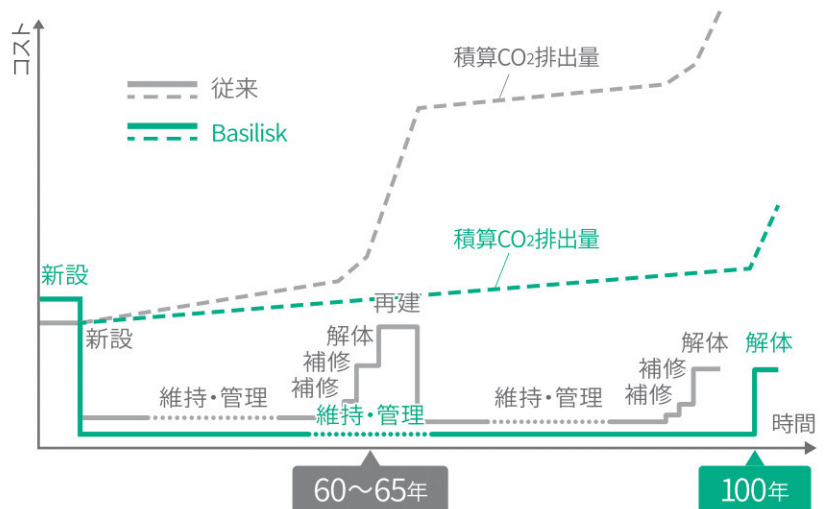
販売：aNET ZERO株式会社

脱炭素化の切り札“Basilisk HA”は生コン・プレキャストの両方で使用可能！
バクテリアの代謝を利用したひび割れを自己修復するスマートマテリアルです。

なぜCO₂削減に繋がるのか？

バクテリアが分裂を続けながら代謝活動によってひび割れを埋めることで、コンクリートは常に自己修復が出来る状態が保たれます。内部の鉄筋が常に守られ続けることから、事実上の「永久構造物」となり、RC造の目標耐用年数を普通品質の65年から高品質の100年以上に延ばすことが可能です。

新設構造物の補修時に発生するCO₂や、将来の建替え時に排出されるCO₂を大幅に削減することが出来ます。



導入実績に見るCO₂削減量

札幌市水道局発注の大型池状構造物に採用され、「HA」を配合した自己治癒生コンを、大型公共事業でポンプ打設する初のケースとして約5,000m³が供給されました。

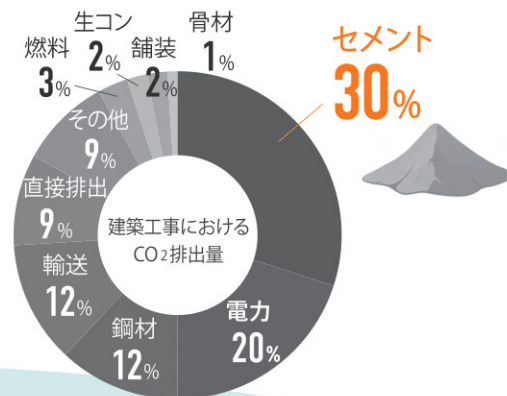


従来の生コンと
比べて削減できる
CO₂排出量

-450t
1284t

コンクリートの原料『セメント』とCO₂の関わり

コンクリートは比較的安価で大量生産ができ、安全性や耐久性も高い材料であるため、建築構造物やインフラ構造に多く用いられています。しかしながら、コンクリートの原材料であるセメントを1t生産するために、約0.8tのCO₂が排出されており、建築工事におけるCO₂排出量のうち、セメントからの排出は全体の30%をも占めています。コンクリートは私たちの生活に欠かせない材料でありながら、CO₂削減への対策が迫られているのです。



カーボンニュートラルに向けて

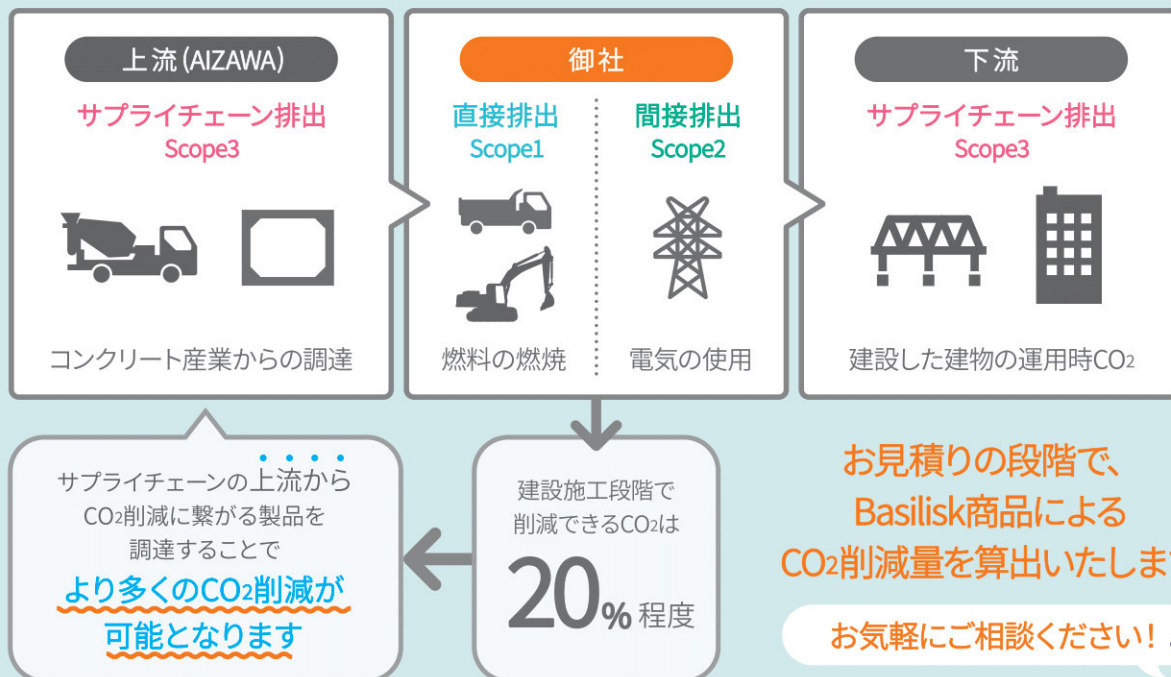
サプライチェーン全体で、温室効果ガス排出を削減する取り組みがすべての企業に求められています。

取引先の企業にも脱炭素化を促す
新たなサプライチェーン構築の動き

脱炭素化の実践を企業評価の
新たな物差しとする投資家の目線

いま、脱炭素化につながるスマートな素材選びの時代へ

サプライチェーン排出量 = Scope1排出量 + Scope2排出量 + Scope3排出量



Basiliskマスコットキャラクター“バンジ”



丸万コンクリートは、2048年までに温室効果ガスのサプライチェーン排出量を実質ゼロにする『NET ZERO2048』にコミットメントします。

株式会社丸万コンクリート

〒996-0091 山形県新庄市十日町1564-2

TEL:0233-22-6822 FAX:0233-22-9652